

21世紀日本の構造変化

—真に問われるべきこととは何か

日本総合研究所理事長
寺島 実郎

- *つながりが見える「知」が重要
- *21世紀の14年間に貧困化
- *内向し学ばなくなった日本人
- *世界の日本観が見えなくなった
- *実態と遊離する経済報道
- *学ぶべき点の多いドイツモデル
- *重要なのは実体経済の動き
- *エネルギーとICTで浮上する米国
- *リスク孕む新金の金融商品
- *活路はサービス産業の高度化



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は皆さんお待ちかねの寺島さんに来ていただきました。ほぼ1年ぶりでございます。先ほど伺いましたら、今日からBSで新しい番組を、寺島さんの企画、制作でやられるそうでございます。後でまたお話があるかもしれませんが、いろいろな方がここへおいでになります。どうもテレビのコメンテーターの発言というのはあまり意味がないという話が多いようです。しかし、今日の番組ではじっくり1人の方と向き合ってお話をされるということでございますので、今回はここで講演を聞いた後、夜9時から寺島さんの番組を見ていただくというのがあると思います。

寺島 実郎
世界は非常に激しく動いておりますし、日本

の立ち位置もこれからさらに難しくなっていくと思いますが、今日は寺島さんのお話を伺って頭をクリアにしてお帰りいただけたと思います。それではよろしくお願いたします。（拍手）

寺島 どうも寺島でございます。
この会は、お世話になった諸先輩がたいへん多いので頭が上がりませんけれども、何か参考になる話をしたいと思います。

今ご紹介いただいた番組のことを忘れないように触れておきますと、今日から始まるのですが、BS11で毎週金曜日夜9時放送で、まずは1年間やってみようと思っております。一部の方はご存じかと思いますが、民法の報道番組等にコメンテーターとして出てはいますが、現象を追いかけるようなコメントだけでは意味